

# 第 1 回寒河江市部活動改革検討委員会議事録（要約）

日時 令和 7 年 5 月 20 日(火) 15:00～  
場所 寒河江市立図書館 2 階 会議室

事務局	ただいまから第 1 回寒河江市中学校部活動改革検討委員会を開会する。
教育長	<p>寒河江市中学校部活動改革検討委員をお引き受けいただきありがとうございます。 本検討委員会も 4 年目となる。これまで委員の皆様から様々な面からご意見やご提案をいただいていた。</p> <p>部活動改革については、検討を進めると様々な課題が見えてくる。本日は大江町からも指導主事が参加されているが、今後は西村山 4 町との連携が必要だと思われる。寒河江市の中学 1 年生は 362 名であるが、令和 6 年度の寒河江市の出生届数は 229 人である。今後の部活動やスポーツ・文化活動の維持・継続を考えると市町を超えた連携が必要である。先日、中学校の部活動改革へ向けた議論を進めてきた国の有識者会議が提言をまとめた。提言では、令和 8 年度からの 6 年間で、地域のスポーツクラブなどが部活動を担う取り組みを、休日は原則すべてで実現、平日でもさらなる改革を目指すこと、これまでの「地域移行」から「地域展開」へ名称を変更することを盛り込んだ。</p> <p>提言を受けて、スポーツ庁の室伏長官は「スポーツ全体の大きな改革である。少子化の中このピンチをチャンスに変えて、競技だけでなく、多様なスポーツや体験を提供することも重要だ。長くスポーツに親しめるよう進化・発展させていく。」と語った。</p> <p>山形県では令和 8 年度からだが、寒河江市では令和 7 年 7 月以降は土日は部活動を行わない。すると各競技で行われる大会にも学校単位では出場はできなくなる。</p> <p>部活動改革の大きなねらいは、生涯スポーツの充実であり、自分の好きな芸術・文化活動を続けることができる環境を整えることだと思う。</p> <p>スポーツでは、競技力の向上を目指すのか、楽しむことを目指すのか、芸術文化活動ではどんな分野の活動があるのか、子どもたちが自分で選択できる環境を整える必要がある。こうした環境を整えられるように関係の各種団体、各種競技団体、スポーツ少年団、芸術文化団体、保護者の皆様のご協力が不可欠となってくる。</p> <p>本日もご参加いただいている委員の皆様からは様々なご意見をいただきたい。本日は、よりよい部活動改革のありかたを見つけ実施されるようよろしくお願いします。</p>
事務局	本日は、第 1 回目なので、自己紹介をお願いしたい。
	自己紹介
事務局	次第に沿って進む。佐藤教育長に議事の進行をお願いする。
教育長	4. 報告協議。(1) 令和 6 年度寒河江市中学校部活動改革の経過および成果と課題について事務局より願います。
事務局	資料の説明
教育長	今のことについて質問はないか。
委員	4 ページの成果と課題の中で、周知の大切さとあったが、正しい情報の発信はわかるが、誤った情報というのは、こういった情報があるのか
事務局	部活動改革を進めた当初、保護者の中から「学校部活動がなくなるようだ。」といううわさが広がり、部活動に加入せずに、地域クラブに加入する事例が例年より多く見られたこと、地域移行という言葉の印象から「学校部活動を地域に丸投げされても、顧問の先生のような指導はできない。」とお叱りを受けたりもした。その場で説明できる場合はよいが、そうでない場合が多い。そのため、ホームページ、市報、さくら連絡網で情報を発信するよう努めてきた。
教育長	よろしいでしょうか。次に(2) 令和 7 年度寒河江市中学校部活動改革年間計画(案)について事務局より願います。
事務局	資料の説明
教育長	中体連のことに関わるので、校長から説明をお願いしたい。

委員	<p>情報提供をする。全国中体連も縮小方向で動いている。令和9年度から水泳、スケート、ハンドボールなど全国大会は行わない。バレーボールは全国大会への出場チーム数を減らす。東北大会にしても大会の運営方法を今年度中に見直す。チーム数の変更などを検討すること。山形県中体連としては、県中総体、県新人総体は実施する。参加人数の少ない新体操や相撲については、検討する必要はある。</p> <p>県中体連はいつまで継続するのかという問い合わせがあるが、基本的に県中体連組織も県中体連主催大会も継続する方向となっている。これを受けて西村山中体連としてもこれまで通り地区総体を実施していきたいと考えている。</p> <p>とはいえ、年々部員数も減っている。具体的にはサッカー一部は陵南中と河北中で1チーム、ソフトボールは西村山地区全体で2チーム、野球は、寒河江市で1チーム、朝日中で1チーム、河北中、西川中、大江中で1チームである。9月に予定されている新人戦では3年生が抜けるのでさらに厳しい状況になる。</p> <p>総体以降は休日の部活動は行わないとしている。土日の練習試合などはできない状況。そこで、地域との連携が必要になってくる。顧問にしても。新人戦などの中体連主催大会や強化練習会には部活動として参加するが、それ以外の土日の活動については顧問は引率できない。その部分が今後課題になってくると思われる。</p>
教育長	<p>今あったように、西村山地区の各校の状況を見ても単独でチームを組めるのは少なくなってきた。合同チームが大会参加を認められる種目もあれば認められない種目もある。個人戦では出られるがやはり団体戦も経験させたいというのであれば、地域クラブとしての参加になる。地域クラブで参加するには、事前に県中体連に登録して参加となる。地域クラブでも県大会に出場できる体制となっている。ただ、地域クラブで県大会に出場できるのは1チームなので、その枠のために地域クラブ同士で試合を行ったりして決定する。</p>
委員	<p>中体連は平日、休日どちらでするのか。また、県大会に出場する際に、学校部活動と地域クラブの経費負担はどのようになっているのか。</p>
委員	<p>中体連主催大会は、審判や役員関係のことから休日に行う。平日開催は難しい。生徒の移動については、中学校単位の移動については、これまで通り公共交通機関か市の補助を受けながら大型バス等での移動となる。地域クラブでの出場の場合は、個人での移動、チームでバスを借りての移動になる。</p>
委員	<p>市からの補助とかはないのか。</p>
委員	<p>市からバス代として各学校に配当される。</p>
委員	<p>ということは、市から指導者への謝金等もできるということか。</p>
教育長	<p>大会そのものについては、各市町から法令外負担金を得て、各競技に振り分けられ大会を運営している。あとは、各学校からの参加費等も含まれる。</p>
委員	<p>地域クラブで活動しているが、中学生向けの説明がわかりづらい。「部活動で出場するならこちら。」「地域クラブで活動するならこちら。」「登録が漏れているから早く手続きを。」などの指示があるのを読み、中学生になった時に不安になる。それは、親の責任になるので、子どもが自分の判断でどちらで出場するか判断できたりしないものか。親が手続きが苦手だからダメとか、忙しいからダメとなっては子どもがかわいそう。もっとわかりやすい手続きにしてほしい。</p>
委員	<p>よく読み込まないとわかりづらいと思う。中体連としては、説明漏れを防ぐために1枚の紙にまとめている。簡単に言うと県中体連の主催大会に、学校部活動と地域クラブのどちらで出場するのか選択するという話である。</p>
委員	<p>どちらかしか出られないのか。学校の名前でも出たいし、地域クラブで勝ち進みたいし、悩むところだ。</p>
教育長	<p>子どもたちが少なくなっている中で、どちらかに決めるのは難しい。結果的に学校も地域クラブも人が少なくて出られないということもありうる。中体連でももう少し柔軟性があると、子どもたちの出場機会が増えるのではないかな。中体連で柔軟な対応をしてもらえると悩む人も減るのではないかな。</p> <p>続けて中学校部活動改革のロードマップについて事務局お願いする。</p>

事務局	資料の説明
教育長	最後のところで、各関係団体あて説明会とあるが、部活動改革について総会や研修会等の場で部活動改革について説明が必要な場合には、事務局に連絡をいただければ説明にうかがう。 他に質問はないか。続いて（３）スポーツ庁による地域スポーツクラブ活動体制整備事業（地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業）について事務局願います。
事務局	資料の説明
教育長	寒河江市地域クラブ一覧について。これは、寒河江市の地域クラブが載っているが、市町との連携で考えると、例えばこのような様式で、西川町のカヌーの地域クラブが掲載してあれば、カヌーをやりたい子はそちらに連絡すればいいので、そうした選択肢が増えるような一覧を作って保護者へ配布できればいいと考えている。 それでは、地域クラブについてコーディネーターより願います。
CN（コーディネーター）	ここに一覧があり、地域クラブが掲載してあるが、ここに掲載されていないクラブにも注目したい。また、文化部についてもその地域展開についても支援をしていく。市内には文科系団体も多くあるが、中学生の受け入れとなるとなかなか難しい。 現在、吹奏楽について地域クラブ化の動きがある。ただ、寒河江市は令和 11 年には統合する。そこまでの間は、各中学校は中学校単位でコンクール等に参加するのではないかと。少子化と教職員の働き方改革が相まって過渡期にある。困っているのは子どもたちや保護者である。それをしっかり支えていく必要があると考えている。
教育長	実証事業や地域クラブの状況等の説明があったが、何か質問はあるか。
委員	運営側の高齢化を感じる。選手はアスリートだが、審判の高齢化で緊張感がない大会も見られる。
CN	色々な競技にしわ寄せが行っている。競技でのジャッジを見ても疑問を感じる場面もある。子どもにとってどうかと感ずるところはある。
委員	委員の話聞いて同感できる部分と違うかなと感ずるところがある。 競技性を高め大会での勝利を目指す子どもたちと体力づくりのために参加する子どもたちがいると思う。地域クラブはその目的に応じた運営体制でよいのではないかと。スポーツにしても文化にしても、上を目指したい人とコミュニケーション友達作りという意識の人と要望に応じた運営の形があってもいいと思う。
教育長	いろんなお子さんがいるので、そこに柔軟に対応できるという。バレーやバスケでは競技団体も多いので、上位入賞を目指す、体力づくり・楽しむことを重視といった形で別れてもいいのではないかと。 あとは、高齢化の問題は自分も感ずる。そうした中、剣道連盟でも地域クラブを立ち上げ県中体連にも登録した。その中で若い人たちを取り込み、若い人が中心となって連盟の運営や子どもたちの指導なども頑張っている。そういった指導を受けた子供たちが将来的に連盟に入り中学生などに指導ができたらい。そういった繋がりを作れたらいいという思いから剣道連盟で地域クラブを立ち上げた経緯がある。 そういったことは、剣道に限ったことではない。若い世代を引き込んでいかないとこの改革も途中で止まってしまう。 他にご意見はあるか。
委員	バレーについて。審判の方々には 70 後半の方もいる。そこで、各チーム帯同審判制をとっている。審判資格は持っているが、協会に入っていない人たちがいる。そういった人たちに副審をしてもらい、審判とのつながりを持って、今度大会に来てほしいなどとして審判を発掘するというのを少しずつ行っている。
教育長	どの団体も抱えている課題は共通すると思う。 それでは続いて（４）部活動改革に向けた取り組みについて各関係団体より事務局説明を願います。
事務局	資料の説明
教育長	それでは、各団体からの取り組みについて、見直しをお聞かせいただきたい。 市スポーツ協会は、ご欠席ですので事務局からの報告を願います。

事務局	市スポーツ協会からは、6月に総会があるのでその席で部活動改革の説明を依頼されている。その説明を機に各競技団体が、部活動改革に取り組んでいただければと思う。
教育長	スポーツ少年団から願います。
委員	<p>昨年度のデータとして、市スポーツ少年団の団員は536名。団体数22団体。そのうち中学生が74名。昨年の中学生在が1051名なので約7%が加入している。</p> <p>スポーツ少年団は競技力の向上を狙うところもあるが、青少年の育成も目指している。その中でも、Bon・クラーズスポーツ少年団では、複合種目に取り組み、キャンプやボランティア活動、リーダー育成に努めている。5月に市スポーツ少年団結団式があった。そこにBon・クラーズスポーツ少年団等に参加している8人の中学生が、結団式の運営に参加した。特に、レクリエーションの部分については、そのリーダーたちに任せている。このリーダーたちはスポーツ少年団のジュニア・リーダーという資格を持っている。小学生たちと世代も近いので、とても楽しそうに運営していた。若い人同士年が近い者同士で触れ合うことでいつながりができていると感じる。</p> <p>また、先日保護者と話す機会があり、軟式野球の保護者から聞いた話を紹介する。なぜ、硬式野球クラブではなく、軟式野球クラブを選んだのかを尋ねた。すると、野球はやりたいたが、硬式では、経費的、時間的負担が大きく、子どももそこまで求めていないとのことだった。だから、寒河江市に軟式野球クラブがあって、非常にありがたいと感じているとのことだった。ただ、この軟式野球クラブは立ち上がったばかりなので、運営組織、運営体制に不安がある。その部分に課題を感じる。</p> <p>別件で、野球関係者の話では、河北町には、野球スポーツ少年団の登録が1つだけある。来年から中学生も入れたクラブ化をしていくという話があるようだ。若い指導者をそろえるために、指導者登録をしてもらえよう声掛けをしたとのことである。どのようにしてそういった考えと体制づくりをしたのか情報収集をぜひ事務局に願いたい。</p> <p>もう一つ。昨年度の地域スポーツクラブ指導者等研修会に参加させていただいた。市の指導者研修会は資格制度ではないと聞いている。資質向上のための研修会と受け止めている。スポーツ少年団では、毎年指導者研修会を行っている。その日程が今回の地域クラブの研修会の次の週になっている。もし可能なら、合同開催を提案したい。</p>
教育長	合同で開催できれば、より多くの方にご参加いただけるのではないかと。
委員	<p>なぜそういう提案するかというと、個人的な思いとして、地域クラブは、小学生も中学生も一緒にするほうが理想的だと思っている。研修会などを合同ですること、実績作りをするのも1つの方法だと思っている。</p> <p>スポーツ少年団では、毎年12月第1週に指導者研修会を行っている。毎回30人から50人の参加者がいる。今回は3年に1回の救急救命法を行う。研修会の合同開催がクラブ化の1つのきっかけになるとよいと思い提案させていただいた。</p>
教育長	<p>今の件について、より多くの方に参加してもらえるように、事務局同士連絡を取り合いながら日程調整をしてほしい。では、その方向で進めてほしい。</p> <p>別件の河北町の件については、事務局で調べてもらい、7月の第2回検討委員会において報告を願います。続いて、スポーツ推進委員から願います。</p>
委員	<p>スポーツ推進委員は、寒河江市のスポーツ推進にかかわる事柄について取組を行っている。1つは、住民の求めに応じてスポーツの指導を行うこと。2つ目は、学校、公民館等の教育機関、その他行政機関の行うスポーツの行事または事業に関して協力すること。また、スポーツ団体や、その他の団体が行われるスポーツに関する行事または事業に関して求めてに応じて協力するとある。そして、教育委員会の定める規則並びに規定に基づいて活動するという縛りがある。</p> <p>ただ、中学生がスポーツをする機会が失われてはならないと思い、実技の指導や技術の指導はできないが、スポーツをすることで、将来的には寒河江の市民憲章にあるように、スポーツの盛んな街が作れるように、ぜひ関わっていききたい。</p> <p>我々の事務局はスポーツ振興課にあるのでそちらから依頼をしてもらえれば、我々は動くことができるのでよろしく願いたい。</p>
教育長	次に、総合スポーツクラブから願います。

委員	<p>これまでの話を聞いていて、中学生の活動がトップアスリートを目指すのか、生涯スポーツを目指すのかで大きく2つに分かれると思う。現在のアスポートの現状をお話すると人員不足のため、事務局体制が弱い地域クラブをお引き受けすることは難しい。また、指導者確保も容易ではない。</p> <p>県全体では、部活動改革に密接にかかわっている総合型地域スポーツクラブはほとんどない。ただ1つ、村山市に陸上を専門とした総合型地域スポーツクラブがあるが、そこははっきりと部活動の受け皿ではないと明言している。ただし、中学生が総合型クラブに入会するのであれば、一般会員と同じように活動ができるとしている。</p> <p>ここで、アスポートさがえとして考えると、指導者と活動場所の確保が難しい。中学生のために地域クラブを作ることは難しい。ただ、現在行っている卓球などに、一般会員と同じように入会し活動するならば、非常にいい体験となるのではないだろうか。</p>
教育長	次に、芸術文化協議会から願います。
委員	<p>芸術文化協議会の活動としては、文化会館、フローラ・SAGAEなどで年に数回行っている。今回は部活動についてだが、技術指導という点では難しい。楽しみながら絵を描くとか、情操感覚を磨くといったことであれば、一緒に活動することもできるのではないだろうか。これからいろいろ検討していく。</p>
教育長	補足で事務局から願います。
事務局	<p>部活動の受け皿として活動するのは、まだ難しい。昨年11月の文化祭期間において、初めて体験お茶会を開催した。令和7年度はもう少し拡大する計画を立て、お茶の他に、舞踊や華道も検討している。国の実証事業を芸術文化協議会として受けたので、お茶と美術系を柱として、体験教室を開催できるよう進めているところである。文科系の活動に親しむ子供たちが増え将来的には、芸術文化協議会の各部会の担い手につながるような活動になればと期待している。</p>
教育長	ここまで各団体から話をいただいた質問はあるか。その他、事務局願います。
事務局	資料8・9・10については、お読みいただきたい。
教育長	他にないようであれば、これで協議報告を終わらせていただく。ありがとうございました。
事務局	以上で、第1回寒河江市部活動改革検討委員会を終わります。長時間にわたりありがとうございました。